

No. 3226

No. 1

日本本州 東京市 S.S

小生即チ「アソメイ」ウオレン・トウソングローブ「先づ型」セ
ク宣誓言 シス上た、如く證言するを志す。

即チ小生一九四一年(昭和十二年)十二月廿五日ヨリ日本
降服ニ至ル迄日本(は虜方アソメイ)ト、小生に香港ニテ(は
虜方トアソメイ)ト小生一九四四年(昭和十九年)五月十三日ヨリ終
戦ニ至ル迄日本本州の如川(は虜病院)ニ(は虜方アソメイ)ト。

小生ハ「スウェーデン」ト大學醫學部卒業後、文
學得業セ、生物化學、理學得業セ、内科及外科醫
學得業セ、醫學位ヲ有スルコト、小生ハ英國ニ於テ種々
ノ病院ニ二箇年半ニ亘リ醫業ニ従事セシコト、且同所ニ
於テ位ニ醫學師ニシテ醫事記録係タリシコト、一九三七年
(昭和十二年)小生ハ内臟醫學ニ従事スル爲メ香港ニ進ミ
シキ来リシ。戰事ノ發見、當國ニテ小生ハ軍醫中尉階
級ヲ授ケ帝國海軍志願隊備役ニ任セラレタコト。

一九四五年(昭和二十年)八月廿七日日本本州大船、大船
海軍志願隊士官所カラ大凡三十人(は虜方品川病院)ニ連
テ来リシ。小生ハ此等(は虜方)中大凡十人ヲ診察シ、臺
灣沖ノ嶋嶼ヲ攻撃中射落サシ飛行隊、大尉、アソメイ、
ロイ、アソメイ、アソメイト私ハ記憶ス。香港ニ降テ彼ハ足

Doc 3226

No. 2

首ニ骨折脱臼ヲ起シタ。此ノ負傷ハ何ノ治療モ
一度トシテ受ケタリトカ無カラ。受ケタチ當ハ日本
人カ彼ヲ特ニ嫌惡シタ場合ニ彼ノ足首ヲ振リニ
来リテケケチアリタ。ソレハ謂ニ謂ニ謂ニ謂ニ謂ニ謂ニ
云ヘタニ違ヒタ。

歩行ニ堪ヘテ蹠ヲ得トニテ最後ノ機會ハ總テ
ノ骨々腿カ不自然ノ状態ニアルトハ慣ヒタリウカラ。
此ニミテ傳カソウ。

彼ノ品リ病院到着後、私ハ彼ヲ完全ニ診察
シタ。彼ハ外科的治療ヲ要スル患者デアッタチ
私ハ彼ヲ英國海軍軍医中流、エーチ、エル、フリー
グ氏ニ引渡シタ。同軍医ニ言フヤウニ其ノ患者
ハ重要ニ堪ヘテ關節ヲ得ルタメニ大變ナ外科
手術ヲ要スルカラウ。然レ彼ノ意見ハ患者
ノ蹠ハ三十五乃至四十パーセント位シカ役ニ立タナ
イカラウトトテシタ。此ハ其ノ患者ハ永久ニ跛行

Doc 3226

者より長距離ヲ歩クコトハ出来ナリト云フ事ヲ意味
スル。私ノ診察シタ大船カマキリ、他ノ俘虜ハ、リカン軍曹
彼ハ八月十日頃、空軍ヨリ海上救援偵察任務ヲ帯ビタ
ビーワイ機カヲ墾キテ墜サレタ。彼ハ廣範圍ノ火傷ト両
脚ニ皮膚表面ニ榴散彈ノ火傷ヲ負ツタ。顔ノ右側面及
ビ右肩ノ火傷ハ、第二程度ニ達ス。其ノ火傷ハ全然治
療ヲ施サレテカッタ。品川病院ニ收容サレタ時ハ膿汁ト
不潔物塊ニツテ居タ。彼ハ垢染ミテ腐膿ノ悪臭ヲ
発散サセテ居タ。彼ハ明ラカニ何等治療ヲ受ケテナカッタ。
大船ヨリ入院シ私ノ診察シタ他ノ俘虜ハ英國軍艦
「ストラテジエム」(戰略)号ヨリ潜水艦乗組士官「ダグラス」
大尉デ、重症ノ濕性脚氣ノ症狀ヲ呈シテ居タ。一九四六年
一月ニハ、彼ハ英國海軍医務當局ノ手デ治療ヲ受
ケテ居タ。

No. 3
私ハ更ニ大船ヨリ来タ「ジョージ・ト」ガ中尉ヲ診察シタ。
彼ハ一九四五年三月、吳沖デ撃墜サレ、大船海軍俘虜
收容所ニ送ラレタ。彼ハ重症ノ濕性脚氣ノ症狀ヲ呈シタ。
私が検査シタ大船カマキリ捕虜ハ「レイスト」名前ノ男デ、米
空軍ノ一員デアッタ。此ノ者ハ昭和二十年ノ春ニ撃墜サレ、右股
根ニ大キナ貫貫銃創ガアッタ。大キナ腫知スルコトノ出来ル塊
ガアリ、「エツキス」光線ニ依リ、ソレガ異物デアルコトガ判明シタ。
大船カラノ捕虜ハ皆極端ナ栄養不良ノ状態ヲ呈シ、
亦皆嚇カレ怯エタ者ノ容相ヲ呈シテ居タ。之等ノ人々ヲ見
タ者ノ印象ハ、茲ニ實ニ残忍ナル扱ヒヲ受ケタ人々ノ一群

No. 4

Doc 3226

ガアルトミフコトデアツ。彼等ハ一様ニ殴打ト飢餓ト何等
診療モトカツタト云フ語ニラニク。

~~署名~~「エイダブリエードソングローヴ」

昭和二十二年十月四日ニ余、面前デ之ニ署名ミテ誓フ。

~~署名~~

「ジョーニア・プリッケヤード」

歩兵大尉

即決裁判所

3226
Doc

證明書

昭和二十三年十月二十日

私ハ茲ニ本添附書類が昭和二十二年十月四日、日本國東京ニ於テ「ア・ニ・イ・ウ・オ・レ・ン・ド・ー・ン・グ・ローウ」ノ宣誓、署名セリト記載セル口供書ノ眞実、寫シタルコトヲ證明ス。

更ニ私ハソレガ日本國東京聯合國最高司令部總司令部法務部刑事記録部長タル私、保管スル原本カラ寫サレタルコトヲ證明ス。

署名「ケアルズ・ダグリー・ウイロビー」

法務部刑事記録部次長

歩兵少佐「ケアルズ・ダグリー・ウイロビー」

No. 5